

History
沿革

- 1986 ○ 東京都江戸川区臨海町にて創業（現臨海センター）
- 1988 ○ インポート物流サービス開始
- 1991 ○ 葛西センター開設
- 1995 ○ 堀江センター開設
- 1997 ○ 瑞江センター開設
- 1999 ○ ジュエリー物流サービス開始
- 2001 ○ 品質管理サービス開始
- 2004 ○ EC 物流サービス開始
- 2011 ○ 旧ターミナルセンター開設
撮影サービス開始
- 2013 ○ 新砂センター開設
- 2014 ○ 湾岸センター開設
- 2015 ○ 瑞江センターを新砂センターに統合
- 2015 ○ 修理機能強化
- 2016 ○ おせっかい物流始動
カイトン倉庫サービス開始
- 2019 ○ ターミナルセンター開設
- 2020 ○ 革修理サービス開始
OTS モールサービス開始
- 2022 ○ O-perspective サービス開始
和光センター開設



この製品は、適切に管理されたFSC®認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。



人間の経済活動や生活などを通して二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・グリーンエネルギー事業（排出権購入）による削減活動によって吸収しようとする考え方や活動です。



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用し環境配慮されたグリーンプリンティング認定工場で印刷しています。



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方にに基づき、より多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。



株式会社 オーティーエス

TEL 03-5605-6515 受付時間 9:30~18:00

FAX 03-5605-6311 24時間受付OK

<http://www.e-ots.jp/>



オーティーエス 検索

会社概要

- 商号 株式会社オーティーエス
- 本店所在地 東京都江戸川区南葛西5-16-1
- 設立 昭和61年 10月1日
- 資本金 6,000万円
- 事業・種目 ファッション物流に関する一切の業務
- センター所在地 臨海センター／葛西センター／堀江センター／湾岸センター／新砂センター／ターミナルセンター／和光センター

Sustainability for All People
サステナビリティをすべての人に



ブランド・ビジネス・サポーター
OTS
Original Total System

SDGs REPORT 2023



ご縁をいただいている皆様へ

「お客様に喜ばれ働く人たちが喜びを感じいつまでも社会に貢献できる企業であること」ステークホルダーだけではなく、地域社会も含めすべての人々が持続的に発展していける社会の実現こそがOTSの願いです。

TOP MESSAGE

2023年はコロナの終息に伴い、活気ある様々な活動が再び息を吹き返しました。

しかし一方では国際的な緊張や自然災害による原材料の価格高騰、そして大幅な円安など、明暗織り交ぜる一年となりました。

引き続きファッション業界は厳しい状況が多い中でも、商品の動きなどでは明るい兆しも見え始め、新たな事業やブランドが芽吹いてくるエネルギーを感じています。OTSでは新規事業「O-Perspective」が始動から1年が経ち、多くのお客様からサンプルや量産のお問合せをいただき着実にご依頼が増えている状況です。世の中では2024年問題に注目が集まり物流業界でも労働力不足が懸念されていますが、労働単価を抑えて成り立っている業界構造に本質的な改革が迫られている状況を、関連する業界も含めて対応する必要があると考えます。

特にモノを扱うビジネスにとって物流は必要な機能であります。その商品やサービスに見合った適切な労力やコストをかけることがブランド価値の向上につながるのではないのでしょうか。

一昨年に刷新した事業ミッション「お客様の持続性に貢献するブランド・ビジネス・サポーター」に沿って、皆様のブランド価値向上に貢献し持続的な事業展開に資するサービスを提供し続け、共に健康で豊かに明るい未来に向けて歩んでいければと思います。



ファッション物流を軸として、様々なオプションサービスを展開しておりお客様のブランドビジネスが持続的に発展することをサポートをしています。



事業活動とバリューチェーン



商品企画

素材開発・生産

縫製加工

●アパレルメーカー

●繊維・生地
●服飾資材

●アパレルOEM

Point

ファッション業界のプラットフォームとして布地の悩みを解決。



01 入荷

- ▶アパレル、バッグ、シューズ、雑貨
- ▶ジュエリー、アクセサリ



Point

国内品はもちろん、海外輸入品の搬入を幅広く対応可能。様々な納品書(インボイス、P/L)の形式にも柔軟に対応し、員数照合をしっかりと対応します。事前データがあればシステム化による効率化・精度UPもご提案。

02 検品・加工

- ▶商品検品 ▶品質選定
- ▶洗濯ネーム発行・取付
- ▶下げ札作成・取付
- ▶検針 (ベルコン、X線)



Point

主にインポート商品などを百貨店、大手セレクトショップに安心して店頭に並べられるまでの全ての業務をトータルでご提供。品質表示は専門の品質担当としてサポート。

03 オプション

- ▶修理・補修
- ▶アパレル、革製品、ジュエリー
- ▶撮影サービス



Point

商品検品で判定された不良品を専門の修理部門で良品数をUP、予期しない商品不具合も一元対応でクイックに対応！プロカメラマン常駐の撮影部門でECサイトに素早く掲載できます。

04 保管・出荷

- ▶保管・在庫管理
- ▶ピッキング・出荷検品
- ▶値札作成・取付
- ▶納品書・専用伝票発行
- ▶梱包・ラッピング



Point

ファッションアイテムに最適な保管設備、環境を完備。在庫管理はシステムで大切な商品を管理。HTによる精度の高い出荷検品を実施。各種百貨店、セレクトショップの豊富な実績による安心できる納品を実現。ECでは複雑なラッピングも対応可能。

05 納品

- ▶実店舗
- ▶指定納品先
- ▶Eコマース



Point

ご要望に合わせて各種運送会社のご利用が可能です。物流会社ならではの特約料金でのご提供が可能。

Environment

環境問題に責任を持ち、直接・間接的な持続可能な自然保護に努めています。

環境への取り組み



▶ リサイクルの推進 ▶ エコプロダクツの推進 ▶ 環境負荷の低減

気候変動、生態系の破壊、資源の枯渇といった環境問題は将来の世代に対する差し迫った脅威となっており、世界全体で極めて重要な焦点となっています。地球環境を保護し、持続可能な未来を築くためには、国、企業、そして個人が各々の立場から環境への取り組みを継続的に行うことが不可欠です。OTSは企業責任を持って環境への負荷を減少させる努力を続けることが、持続可能なビジネスモデルを築くために重要と考えます。『自分たちにできること』、まずはその一歩を踏み出すことから始めています。



OTSの在庫販売

ファッションロス ゼロを目指して

日本では毎年100wtの洋服が廃棄されているといえます。OTSはファッション業界について回ることに対して物流会社だからこその視点で取り組んでいます。

不動産の
消化点数 **3,992**点
447万円の売上



カイトン倉庫「OTSセールの実施」

ブランド価値を棄損しないクローズドなセールを社員・関係者向きに開催し、荷主様の不動産の消化のお手伝いをしています。



エシカル消費を促進するO-Perspectiveのプリントサービス

少量生産のものづくりを支援する

O-Perspectiveではオリジナルプリントの生地を小ロットから生産可能となっています。これまでは材料調達やコストの都合により、大量生産せざるを得ないという構造的な問題がありましたがO-Perspectiveが提供するテキスタイルプリントサービスを利用することにより、必要な量だけ商品を生産できるようになりました。アパレルの大量廃棄問題を改善するだけでなく、低リスクで特色のある商品を展開できるようになるため、ファッション業界の活性化にも役立っています。



環境負荷の低いプリントシステム

最新のデジタルテキスタイルプリンターを導入することにより、これまで大量の電気と水を必要としていたデジタルテキスタイルプリントを、プリンター内部ですべて完結できるようになりました。プリント工程が簡素化したことにより、大幅な省エネを実現するだけでなく、水を一切使用しないため水質汚染ゼロのサステナブルなサービスとなりました。O-Perspectiveは「TOKYOエシカル」のパートナー企業として東京都より認定を受けています。



汚染水排出 **0** L

DX、ペーパーレス化について

Teachme Bizや楽々明細といった電子化ツールの導入の効果は、ペーパーレス化の促進だけにとどまりません。マニュアルのDX化によりサービス品質が底上げされ、また請求書の電子化により自社だけでなく顧客の業務効率化・スリム化にも貢献しています。

削減目標 **10** % 削減



都心近くの倉庫でCO₂削減に貢献

輸送コストからとCO₂削減

OTSから出荷される商品の23.4%は都内宛となっています。コスト面を考えると郊外に倉庫を構えるメリットは大きいですが、カーボンニュートラルやアクセシビリティの観点では大きなアドバンテージがあると考えています。



段ボールのリサイクル活動

排出される資源の再利用

物流倉庫では日々大量の廃棄段ボールが発生します。これをリサイクルに回し、再利用する取り組みが始まっています。2023年は187tの段ボールが再利用されました。

再利用 **187** t



不用品のリサイクル活動

不要になった玩具や洋服をリサイクル

おもちゃ **35** kg 洋服 **100** kg

洋服やおもちゃの不用品回収に年間を通じて取り組んでおり、今年は洋服100kg おもちゃ35kg相当を廃棄ではなくリサイクルに転用することができました。商品の寿命を全うするべく主に東南アジア諸国に送られました。



OTS Webストアでロスの低減



お客様の廃棄予定商品を買取りし、OTSが運営する社販ECサイト上で販売しています。クローズドな市場のためブランド価値を棄損することはありません。お客様の店舗やオフィスで不要となった什器等を回収いたします。回収した什器はパートナー企業でもあるリサイクルリンク社を通じて、カンボジア等の東南アジア諸国に寄付しています。

地域やステークホルダーに対し必要な取り組みを常に模索し持続可能な社会を目指し責任を果たします。

地域・社会への取り組み



▶お客様と共に ▶ビジネスパートナーと共に ▶地域社会と共に ▶社員と共に

商売の基本は三方よしにあると言われています。OTSも買い手・売り手・社会の三方に永続的に貢献することを企業理念として掲げており、企業活動を単なる利益追求だけでなく、社会的責任を果たす一環と捉えています。

雇用の創出や納税といった経済的な貢献はもちろん、地域の慈善活動の支援や教育支援といった社会的な貢献まで、地域社会との協力や持続可能なビジネス実践を通じて、地域全体の繁栄に寄与し、長期的な成長を築く基盤の構築を目指しています。



さあ、やってみよう!



『SDGsえどがわ 10の行動』



<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e083/kuseijoho/keikaku/sdgs/10action/index.html>

つい難しく考えがちなSDGsですが、江戸川んでいる、あるいは取り組みやすい身近で簡て掲げています。江戸川区は令和5年度を「SDGsの行動を継続し、習慣化する1年」と位置付け、普及活動を推進しています。

区は私達が普段の生活の中で、すでに取り組単な行動を「SDGsえどがわ10の行動」としDGsの行動を継続し、習慣化する1年」と位置



クボタスピアーズ

地元ラグビーチームへのスポンサー

地元ラグビーチームへのスポンサーを通じてチームと協力してSDGs活動を定期的に行っています。2023年はのべ100名の社員がボランティア活動に参加し、近隣のごみ拾いやイベントブースの運営などに携わりました。

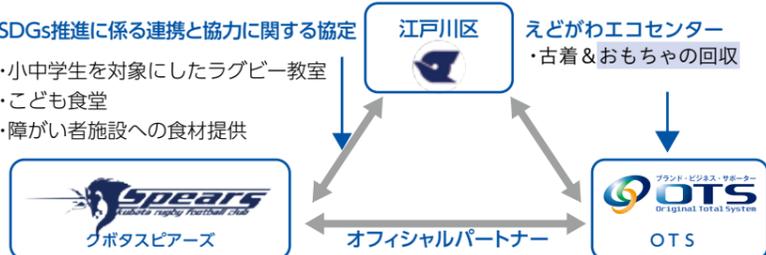


◆江戸川区×クボタスピアーズ×OTS

OTSは江戸川区と連携し区民が不要になったおもちゃを集め、関連会社を通じて国内外でリユースや寄付を行っています。また、江戸川区と連携協定を締結しているクボタスピアーズとは、オフィシャルパートナーとしてイベントなどに参加し地域の社会貢献活動を行っています。江戸川区に拠点を置くOTSは、今後も江戸川区とクボタスピアーズとともにSDGsの活動を通じて持続可能な社会を目指しています。

SDGs推進に係る連携と協力に関する協定

- ・小中学生を対象にしたラグビー教室
- ・子ども食堂
- ・障がい者施設への食材提供



試合会場3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動に参加

- ・ごみ拾い・ごみの分別
- ・フードドライブ
- ・洋服&おもちゃの回収

関連会社を通じて国内外へリユース&寄付



学習支援/インターンシップ

身近に学べる場を作る活動

服飾専門学校への職業体験や、就職活動の一環としてのインターンシップを通じ、物流が身近に学べる場を作る活動を行っています。



オープントークス

OTSのファンになっていただくために

2010年1月の創刊より14年目を迎えたOTSのニューズレター。毎月1日にステークホルダー向けに発行し様々な角度からOTSを知っていただく試みを続けています



救命救助講習

救命技能を取得

社員と契約社員は3年ごとに普通救命講習を受講。AEDの使用方法も含めた救命技能を取得しています。またすべてのセンターにAEDを設置しており、地域のAED設置場所としても機能しています。



165号発行



東京23FC

地元サッカーチームと連携

地元サッカーチームと連携し、短時間正社員制度を利用した選手への就業支援サポートを行っています。2023年は2名の選手が入社し日々物流業務にあたっています。



所属選手 2名



補助犬支援活動

継続して6年

補助犬支援を継続して6年が経過。障害者サポートへの啓発活動も活発に行っており、全社を通じて募金活動に参加しています。

募金額

81,916円



的確な経営の意思決定、業務執行体制の確立と共に、社員の働き方の多様性や女性活躍の推進を通して持続可能な経営を目指しています。

ガバナンス・経営・組織運営



SDGs時代のコーポレートガバナンスは単に法令順守や企業の倫理的行動について規定するにとどまらず、社会的意義への理解や、それに基づく活動を通じて持続可能な社会形成を担うことが求められています。

またその対象も、株主や投資家といった直接的なステークホルダーだけでなく、社員や地域、そして海外の労働者といった広い範囲の利害関係者を考慮した経営が求められています。

OTSは様々な活動を通じてSDGs時代のガバナンスの強化に努めています。



女性活躍

育児支援も充実

780名を超える従業員のうち87%が女性となっている。さらに女性管理職者も前年比200%と活躍目覚ましい。また育児支援も充実しており小学生までは育児短時間勤務が認められています。(2023年9月現在)

女性従業員数

684名以上



長期計画有給

ライフワークバランスの改善

有給の消化率アップのために計画有給を導入。また連続5日の長期有給の取得を奨励するなどライフワークバランスの改善に努めています。

長期有給の取得を奨励 連続5日



BCP

策定したBCPは毎年更新され、感染症対策といった新たな脅威に対しても対応策が盛り込まれました。今年度はBCP簡易版の更新を全事業所で完了させました。

BCP簡易版の更新 全事業所 100%



Pマーク講習

Pマークの更新も9回目となり個人情報保護の体制も定着してきました。2年に一度の認定更新に向けPマーク研修も毎年実施しており、個人情報保護への意識は年々高まっています。



更新回数 9回



交通安全講習

交通安全に対する啓もう活動推進

業務内での車使用者と車通勤者に対して交通安全講習を行いました。また自転車通勤者に対して自転車安全講習を実施し交通安全に対する啓もう活動を行っています。

講習参加者 417人



カイゼン活動

持続可能な取り組みの根幹

部署やセンターの垣根を越えて構成される5つの委員会活動はOTSの持続可能な取り組みの根幹となっています。



次世代のアパレル業のために

アパレル物流をオールインワンに

おせっかい物流

アパレル物流に特化したサービスを展開。基本的な物流サービスの提供は勿論、お客様のブランド価値を高める様々なオプションサービスを用意しています。必要な機能を組み合わせることでオーダーメイドの物流サービス構築が可能です。

「物流からファッション業界を元気にしたい」というおせっかいな思いを実現するために、OTSはこれからも走り続けます。



在庫消化のお手伝い

カイテン倉庫

ブランド価値を棄損しない最適な販売方法を、案件ごとにご提案いたします。OTS在庫連携スキームによる統一されたシステムにより、工程・コスト・リスクを最小限に抑えます。面倒な手続きは一切不要！OTSがすべてを代行いたします。

※フラッシュセール(期間限定販売)、クローズセール(特定の会員のみ販売)など、御社のブランド価値を損なわない在庫販売方法をご提案いたします。

MD改善



次世代アパレル業に貢献

テキスタイルプリントサービス
O-Perspective
(オーパースペクティブ)



最新技術を使用したテキスタイルプリントサービス。生地質感を維持したまま、色鮮やかで多彩な表現を可能に。欲しい時に欲しい量だけ生産可能。エシカルアパレルを促進します。



- 「版」を必要としない小ロット生産が可能
- 水の使用料を大幅に削減
- 分散型生産により輸送の工数を低減
- 生地選択肢が多いため、実験的な製品の実現も可能
- 「版」を使用しないため試作段階からの変更も容易

カイゼン活動 今年度より委員会の主導體制を刷新し カイゼン活動を推し進めた

【現場主導の活動】

作業環境の整備や意識改革を行う5S委員会。ミスを起こさない仕組みづくりを行うCS委員会。作業の効率化を求める取組みを行う人時委員会。業務に直結する3つの委員会は、夫々の活動を通してお客様への貢献に繋げる活動に取り組みました。

【本部主導の活動】

親睦を深めコミュニケーションの重要性を理解するための企画立案やイベントの運営を行う親睦委員会。OTSを余すことなく知ってもらうためのPR活動を担当する広報委員会。社内の事を俯瞰的に捉え、より調整力が必要な2つの委員会は、全体最適を目指す活動に取り組みました。

今後は委員会同士での協力体制を整え、カイゼン活動に幅が出るように取り組む予定です。



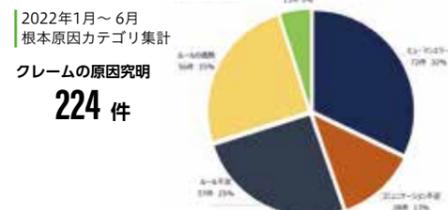
CS委員会

課題発見力を高め、業務カイゼンを行える人材の育成

これまでに推し進めてきた業務マニュアルの作成・検証を経て、Teachme Bizも活用しながらサブ担当育成に取り組んでいます。クレーム発生率の高い作業を洗い出し、対応策の検討や業務量に比例してクレーム発生率が高くなるお客様を抽出して根本的原因の追及、更に徹底した業務の見直しや体制強化の必要性など再発防止策を強化・策定する役割を担っています。

主な活動

▶CSジャーナル：ミスの根本原因に追求



▶業務マニュアル整備と検証

クレーム発生要因の50%はルールの不備や不徹底によるものであったため、誰でも・いつでも・簡単に参照できるマニュアルのデジタル化を部門・部署を跨いで強力に推し進めています。

登録マニュアル数 **4022**件
Teachme Biz



広報委員会

OTSの知られざる魅力を発信 Open Talk'Sでファン作り

OTSをより知ってもらうために、OTSのサービス内容や取組みなど様々な角度(側面)から社外報(Open Talk'S)として毎月1回発行中(2023年9月_165号)しています。より多くのお客様にOTSのサービスをタイムリーなポイントで知って頂くために、これまでセンター毎での持ち回り制の作成から編集者固定による作成方法に変更しました。

主な活動

▶社外報(OpenTalk'S!)の発行

誌面のクオリティが統一され、写真映えはもちろんのこと読み応え十分な誌面へと生まれ変わりました。OTSの新サービスから近隣の飲食店情報まで、社外の方が読んで納得、見て楽しい紙面作りを目指しています。



▶社員にフォーカスしたOur Talk'Sの発行

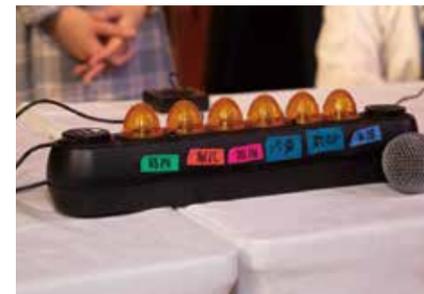
発行休止となっていた社内報「OurTalk'S」の復活は今年の広報活動の目玉となりました。OpenTalk'S！をより社外向けな内容にリニューアルしたため、よりディープな内輪ネタを社内の皆さんに提供すべく、社内と一緒に働く人たちに焦点をあて、隣の人を知る！業務(サービス)を知る！を目標に四半期ペースで発行しています。



親睦委員会

親睦活動を通じて、CS向上に繋がる委員会作りを目指す

「仲良しだけで終わりにしない！」社会人としてのコミュニケーションが図れるように、センター内に留まらず部門を横断した円滑なコミュニケーションが出来るように親睦委員にて1人でも多くの社員が参加できるような企画を考案しています。今年度は親睦会主体にて社長を囲む食事会のグループ決めや手配に注力しました。コロナ禍で自粛していた懇親会も徐々に各センターにて企画・運営され、盛り上がりを見せました。



主な活動

▶親睦委員主導による社長食事会の開催

食べたいものでお店選びから始まり、同じ食の嗜好の中でお酒重視の人や喫煙の有無まで配慮し、楽しめる会を実現。普段交わることのない部署とのコミュニケーション場を実現させる事が出来ました。



▶センター単位での懇親会

徐々にセンター単位での歓迎会や納涼会などを開催。新入社員や人事異動で新しくセンターに来たメンバーとも親交を深める機会となりました。



人時委員会

人時生産性を理解・把握→効率化の追求→利益化に貢献

人時は「プロジェクト」から「委員会」へと形態を進化させました。まずは人時生産性を把握し、カイゼン施策を考え行動が出来る体制を整えることを第一に活動しました。適正単価の根拠・指標となる数値を算出して可視化することで、より効率化を高め収益力を強化できる体制を目指しています。

- 1.現状の人時生産性を正しく理解、把握するために人員配置表を活用。
- 2.カイゼン施策のPDCAを実施。

主な活動

▶SmartLoggerの導入

センター毎に作業生産性を向上させるためにカイゼン施策を立案、より具体的な落とし込みを実施。施策に基づき行動されているか、実行結果の振り返りまでサイクルで検証しています。



▶理解度の測定

たくさんの数字を扱う人時委員会。より正確に進めるために人時研修を実施しています。研修後にはアンケートを実施し、各々の理解度を把握し継続的にフォローしています。



5S委員会

5Sを実行することに因る効率化、収益化に繋がる活動を継続的に実施

2S環境を維持し、常に向上し続けるための運用ルールを構築するために、3つのプランを策定し実行・継続しています。

- (1) 知識向上と目標の共有 (2) 整理・整頓の活動 (3) 清潔・躰の活動

5S活動がもたらす効率化、強いては収益化に繋がる活動を継続的に取り組んでいくだけでなく、従業員の意識改革のために外部講師による全体研修も実施しています。

主な活動

▶全センター見学の実施及び5Sチェック

全センター見学を実施。「良いアイデア」を持って「持ち帰る」をコンセプトに実施。自センターに無い、新たな気づきを得る機会となっています。



▶定着化促進・社員意識変化・知識向上の教育

倉庫業にとって5Sは基本の基。これまで様々な取り組みが実施され効率面や安全面で大きなカイゼン成果を上げることができました。本年度は5S活動をさらに飛躍させるべく外部の専門コンサルタントによる講習を実施しました。

